



Efforts for global peace and potential of the civil society
—the review of international pursuits towards the ultimate abolition of nuclear weapons
in the last 70 years and the path to the future

恒久的な平和への取組みと市民社会の可能性
—核廃絶に向けた70年の軌跡と今後

2015 marks 70 years since the atomic bombings of Hiroshima and Nagasaki. Although a large number of people lost their lives and suffered harrowing experiences, the world has not achieved abolition of nuclear weapons, WMD(Weapons of mass destruction) that could even drive mankind to the verge of extinction. At the same time various attempts have been globally made for nuclear disarmament and non-proliferation, while related grassroots actions have spread across the world.

In this symposium, we will explore how we can conceive of the future prospect for the world without nuclear weapons, while objectively reflecting on what has been achieved and what has not been done in the international efforts of eliminating nuclear weapons, and prospecting whether the global expansion and connectivity of matured "Civil Society" such as NGOs, business, institutions of higher education and municipal corporations will essentially change the way in which world politics is conducted in the future.

広島と長崎に原爆が投下されてから今年で70年が経過しました。おびたしい数の人命が奪われ、悲惨な状況を経験しながら、われわれは人類の存亡にさえ関わる脅威であるこの核兵器を廃絶するには至っていません。しかしながら、国際社会では核軍縮・廃絶に向けた様々な取り組みがなされてきており、草の根レベルの運動の輪も着実に広がっています。

そこで本シンポジウムでは、これまでの核廃絶に向けた取り組みの中から、いったい何が達成され、何が克服すべき課題として残っているのか客観的に振り返り、核廃絶に向け実質的に前進するためにNGO、個人、企業、大学、地方自治体等の「市民社会」がどのような貢献をすることができるか議論し、グローバルな平和への展望を探ります。

Date & Time: July 28th 2015, 9:30 - 17:30
*Venue open 9:00

**Venue: INTERNATIONAL CONFERENCE HALL
HIROSHIMA B2, "Himawari"**
*In the Peace Memorial Park.
*Admission free. 200 seats available.

Language: English / Japanese (with simultaneous interpretation)

Hosted by : Institute for Peace Science, Hiroshima University

【日時】2015年7月28日(火)9:30-17:30
※開場9:00

【場所】広島国際会議場 地下2階「ヒマワリ」
(広島市中区中島1番5号 平和記念公園内)
※入場無料(先着200名)

【言語】英語 / 日本語(同時通訳付)

【主催】広島大学平和科学研究センター

Seat availability is limited so please apply by e-mail or phone if you are interested in attending. But, You can join in the symposium without reservation, if the seats are left. 参加ご希望の方は、下記内容をFAX(送信表不要)、またはメール(件名を「シンポ申込み:氏名」とする)にて事前にお申し込み下さい。(↓Fax用) 定員を超えた場合、お断りさせて頂くことがあります。また、席に余裕がある場合は、当日参加も受け付けます。

Name ご氏名	Please check which part you will attend. 参加ご希望の部にレを付けてください。 <input type="checkbox"/> Keynote speech/基調講演 <input type="checkbox"/> Session 1/ I 部 <input type="checkbox"/> Session 2/ II 部	<申し込み先/Contact Address> 広島大学平和科学研究センター 〒730-0053 広島市中区東千田町1-1-89 Institute for Peace Science, Hiroshima University Higashisenda-machi 1-1-89, Naka-ku, Hiroshima 730-0053 TEL : 082-542-6975 / FAX : 082-245-0585 E-mail : heiwa@hiroshima-u.ac.jp URL : http://home.hiroshima-u.ac.jp/heiwa/
Company ご所属		
Tel or E-mail		

Efforts for global peace and potential of the civil society

—the review of international pursuits towards the ultimate abolition of nuclear weapons in the last 70 years and the path to the future
恒久的な平和への取組みと市民社会の可能性—核廃絶に向けた70年の軌跡と今後

9:30 ~ 9:45 Opening Remarks/ 開会の言葉

< Organizer & Session 1 Moderator/ オーガナイザー & 第I部モデレーター >



Mitsuo Ochi
越智 光夫
広島大学長

1952年愛媛県今治市生まれ。広島大学医学部卒業後、整形外科に入局し、ヨーロッパ留学などを経て、2007～11年広島大病院院長、2008～11年理事、2011～12年理事・副学長、2012～15年学長特命補佐を歴任。2015年4月より広島大学長。2010年に文部科学大臣表彰「科学技術賞」、2014年に産学官連携功労者表彰「厚生労働大臣賞」を受賞。医学博士。



Tsuneo Nishida
西田 恒夫
広島大学
平和科学研究
センター長

1970年に東京大学法学部卒業後、外務省入省。1999～2001年在ロス・アンジェルス日本国総領事、2001～02年経済協力局長、2002～05年に総合外交政策局長、2005～07年に外務審議官(政務)、2007～10年に特命全権大使カナダ駐劄兼国際民間航空機関日本政府代表、2010～13年に国連日本政府常駐代表特命全権大使などを歴任。2014年4月より広島大学平和科学研究センター長(同特任教授)。

9:45 ~ 12:05 Session 1: Past endeavors for the abolition of nuclear weapon

第I部 核廃絶に向けた努力の軌跡



Ertuğrul Apakan
OSCEウクライナ
特別監視団代表
元国連トルコ政府常駐代表

OSCE(欧州安全保障協力機構)ウクライナ特別監視団代表。1947年トルコのイズミル生まれ。アンカラ大学政治学部卒業、エーゲ大学大学院修了。修士(国際経済)。2006～09年トルコ外務省事務次官、2009～12年国連トルコ政府常駐代表。2010年国連安全保障理事会議長。トルコ-EU間の協議やエーゲ海の資源等に関するギリシャとの協議、国連仲介によるキプロス問題に関する交渉、トルコ-アルメニア国交正常化交渉などにも関与した。国連では、ジェンダー、高齢化問題、災害マネジメント等の問題に取り組んだ。



Akio Kawato
河東 哲夫
Japan-World Trends代表
元在ウズベキスタン・
タジキスタン大使

1947年生まれ。ハーバード大学大学院修了。修士。東京大学教養学科卒業後、1970年に外務省に入省し、ドイツ、ソ連、スウェーデン、米国に勤務。東欧課長、文化交流部審議官、在ポストン総領事、在ロシア大使館公使、在ウズベキスタン・タジキスタン大使を歴任。2004年9月より日本政策投資銀行設備投資研究所上席主任研究員。2006年9月に独立し、日英中露語による国際ブログ「Japan-World Trends」を創立(代表)。著書に、『ソ連崩壊を背景とした大河小説『遥かなる大地』(熊野洋の筆名、草思社)、『意味が解体する世界へ』、『新・外交官の仕事』、『米中ロシア虚像に怯えるな』(草思社)等多数。Newsweek等雑誌執筆、テレビ出演多数。



Takeshi Hikiyama
引原 毅
外務省
軍縮不拡散・科学部長

1959年生まれ。1982年に東京大学法学部卒業後、外務省入省。アジア大洋州局南西アジア課長、欧亜局西欧第一課長、内閣官房内閣参事官(内閣官房副官補付)、在ロシア日本国大使館公使、日本APEC準備事務局長大使等を歴任、2010～12年在ポストン日本国総領事館総領事、2012～13年大臣官房参事官兼欧州局大使、2013～14年大臣官房審議官兼欧州局大使を経て、2014年7月より、総合外交政策局軍縮不拡散・科学部長。



Shinsuke Tomotsugu
友次 晋介
広島大学平和科学研究センター
准教授

2010年名古屋大学大学院環境学研究科博士課程修了。博士(法学)。フルブライト奨学金を得て2008～09年ジョージワシントン大学客員研究員、2009～11年(独)科学技術振興機構・科学技術研究開発センターアシリエイトフェロー、2011～14年名古屋短期大学英語コミュニケーション学科助教(国際関係)を経て、2014年4月より現職。著書に『対テロ国際協力の構図—多国連携の成果と課題』(共著、ミネルヴァ書房)、『アメリカを知るための18章—超大国を読み解く』(共著、大学教育出版)など。

12:05 ~ 13:50 Lunch break/お昼休憩

13:50 ~ 14:30 Keynote speech/ 基調講演



Surakiart Sathirathai
タイ王国元副首相
APRC議長
AsianSIL理事

1979年チュラロンコン大学法学部卒業、1985年ハーバード大学法科大学院修了。法務博士(J.D.)。1995～96年タイ王国財務大臣、2001～05年外務大臣、2005～06年副首相、2006年副首相・文化省大臣臨時代理兼任を歴任。2003年ASEANサミット組織委員長、2007～08年及び2013年ネパール制憲議会選挙監視団共同議長(ジミー・カーター元米大統領と共同)。現在はAPRC(アジア平和・和解評議会)議長、AsianSIL(アジア国際法学会)理事。シャムプレミア国際法律事務所等の企業で会長職を務めるとともに、多数の大学で客員教授も務める。

14:40 ~ 17:15 Session 2: The potential of the civil society and the prospect for the global peace

第II部 市民社会の可能性とグローバルな平和への展望



Motoatsu Sakurai
櫻井本篤
Japan Society 理事長

1968年に東京大学法学部卒業後、三菱商事(株)入社。1976年にビジネススクールに派遣され、MBA取得(INSEAD フランス)。1978年にInternational Bank for Reconstruction and Development(世界銀行)へ向出し、1984年米国三菱商事(株)。その後、1985年同社ワシントン事務所(1990年同所長)、1996年社長室会事務局長、1998年取締役、業務部長、2000年取締役、米国三菱商事(株)EVP、2001年常務執行役員、2003年常務執行役員、北米ブロック統括(兼)米国三菱商事(株)社長を経て、2006～09年在ニューヨーク日本国総領事館総領事(大使)。2009年4月よりJapan Society理事長。



Mariko Bando
坂東 真理子
昭和女子大学長

富山県生まれ。1969年東京大学卒業、総理府入省。内閣広報室参事官、統計局消費統計課長、男女共同参画室長、埼玉県副知事、プリズン総領事などを経て、2001年内閣府男女共同参画局長。2004年から昭和女子大学大学院教授・女性文化研究所長、2007年から昭和女子大学長、2014年4月から学校法人昭和女子大学理事長。『米国きりあうまん事情』(東洋経済新聞社、1982年)、『副知事日記』(大蔵省印刷局、1998年)、『女性の品格』(PHP研究所、2006年)、『日本人の美質』(ベストセラーズ、2011年)、『女性の知性の磨き方』(ベストセラーズ、2015年)など著書多数。



Brian Finlay
スティムソン・センター
副所長

カールトン大学大学院修士課程修了(国際関係)。カナダ保健省・疾病管理研究センター・プロジェクトマネージャー、センチュリー財団プログラムオフィサー、ブルッキングス研究所上席研究員などを経て現職。また、スティムソン・センターが進める「越境的管理」(Managing Across Boundaries)と呼ばれるイニシアチブを統括。国・地域・国際レベルでの革新的な政府の対応、官民連携の推進、越境的な脅威の緩和、および開発問題の改善などに関する諸活動に取り組む。IMMAP(人道援助、開発における情報管理を支援)やBlack Market Watch(不法貿易に対抗するための調査等、諸活動を支援)などの国際非政府組織の顧問もつとめる。



Katsuyuki Yakushiji
薬師 寺克行
東洋大学教授

1979年東京大学を卒業し朝日新聞社に入社。政治部で首相官邸や外務省などを担当。政治部次長、論説委員、編集委員などを務め、2005年に朝日新聞社のオピニオン誌、月刊『論座』編集長、2009年に政治部長。この間、2002年に米国のシンクタンク、スティムソン・センター客員研究員。2011年に朝日新聞社を退社し、東洋大学社会学部教授。専門は現代日本政治、日本外交論。主な著書に、『現代日本政治史』(有斐閣、2014年)、『ナショナリズムと外交』(講談社、2014年)、『検証民主党政権』(講談社、2012年)、『村山富市回顧録』(岩波書店、2012年)など。

17:15 ~ 17:30 Closing Remarks/まとめ・閉会の言葉

< Session 2 Moderator/ 第II部モデレーター >

< MC/ 司会 >



Noriyuki Kawano
川野 徳幸
広島大学平和科学研究センター教授

広島大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程修了(医学博士)。広島大学原爆放射線医学研究所附属国際放射線情報センター助手・助教、広島大学平和科学研究センター准教授等を経て、2013年6月から広島大学平和科学研究センター教授。専門は原爆・被ばく研究、平和学。



Asami Ogura
小倉 亜紗美
広島大学平和科学研究センター助教

2009年広島大学大学院生圏科学研究科博士課程修了、博士(学術)。2009～10年広島大学総合博物館客員研究員、2010～14年広島大学国際センター研究員を経て、2014年4月より現職。専門は、環境平和学、環境教育。